

大阪市立東洋陶磁美術館
第14回
李秉昌博士記念公開講座

高麗陶磁と 磁州窯系陶磁

2022年3月5日(土)
13時15分～17時00分

オンライン開催

(YouTubeからの限定公開配信)

参加無料

〈要事前申込〉



青磁鉄地象嵌草花文梅瓶 高麗時代・12世紀
住友グループ寄贈(安宅コレクション) 写真:六田知弘



黒釉白地搔落牡丹文梅瓶 北宋～金時代・12世紀 磁州窯系
住友グループ寄贈(安宅コレクション) 写真:六田知弘

主催：
大阪市立東洋陶磁美術館

後援：駐大阪韓国文化院
東洋陶磁学会
協力：アートエリアB1

プログラム

13:15～13:20	開会挨拶	出川哲朗 (大阪市立東洋陶磁美術館 館長)
13:20～14:00	基調講演	磁州窯と磁州窯系について 森達也氏 (沖縄県立芸術大学 教授)
14:05～14:40	講演 1	磁州窯剔花技法の変遷と対外的影響についての浅説 日本語字幕 趙学鋒氏 (中国・磁州窯博物館 館長)
14:45～15:30	講演 2	中国磁州窯系絞胎磁器と高麗練理文磁器との関係 日本語字幕 張南原氏 (韓国・梨花女子大学校 教授)
15:35～16:15	講演 3	日本出土の磁州窯系陶器 鈴木裕子氏 (株式会社イビソク 技術部)
16:20～16:50	講演 4	磁州窯系の広がり和高麗陶磁—伝開城出土品を中心に 鄭銀珍 (大阪市立東洋陶磁美術館 主任学芸員)
16:50～17:00	総括	出川哲朗
17:00	閉会	

※講演者・講演内容・タイムスケジュールは事前の予告なく変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

開催内容

高麗陶磁は10世紀半ばに中国・越窯の技術をもとに生まれたといわれ、その後も汝窯や耀州窯など中国陶磁から影響を受けながら独自の発展を遂げました。高麗陶磁と関連のある中国陶磁の一つが磁州窯です。磁州窯は河北省邯鄲市磁県の観台鎮や彭城鎮などを中心とした一大窯系で、白化粧などを用いた多彩な装飾技法で知られています。磁州窯や磁州窯系の製品は高麗の都・開城をはじめ高麗時代の遺跡などからも出土しており、高麗陶磁との関連を考える上で重要な手がかりといえます。

今回、高麗陶磁と磁州窯系陶磁をテーマに、関連する最新の研究成果について、韓国、中国、そして国内から第一線の研究者をお招きし、ご紹介いただきます。なお、本講座は、在日韓国人である故李秉昌(イ・ビョンチャン)博士(1915-2005)による韓国陶磁研究のための寄付によって開催するものです。李秉昌博士のご厚志に対し、心からの敬意と感謝の意を表します。

申込方法

2月7日(月)より申込みを開始します。

下記URL(またはQRコード)より、必要事項を申込フォームに入力の上、お申し込みください。

3月3日(木)までにご視聴URLをメールでお送りします。

随時リアルタイムでの参加も受け付けますが、事前のお申込みをおすすめします。

参加者には当日資料「李秉昌博士記念 韓国陶磁報告書14(「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」)」(PDF版)のダウンロードURLをお知らせします。

お申込フォーム

<https://bit.ly/moco220305>



アーカイブ配信

公開講座終了後、YouTubeにて公開講座の動画を期間限定でアーカイブ配信します。

詳細は、2022年3月9日(水)頃公開する大阪市立東洋陶磁美術館

ホームページの「お知らせ」内の情報をご覧ください。

申込・配信に関するお問い合わせ先:アートエリアB1

電話:06-6226-4006(12時~19時)※月曜休

本講座に関するお問い合わせ先:大阪市立東洋陶磁美術館

電話:06-6223-0055(9時~17時30分)※土日祝休

ホームページ:<https://www.moco.or.jp>